

# 「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果」の公表について

## 富田林市教育委員会

### 1. 調査結果公表の主旨

- ・児童・生徒の学力向上には、学校だけではなく、保護者をはじめ、地域（市民）の方々に本市の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが重要です。
- ・富田林市教育委員会としては、本市の教育改革の取組みを更に推進し、子どもたちの「確かな学力」の育成を図るため、本調査結果資料を公表します。

### 2. 調査結果の取り扱い、及び留意点

- (1)富田林市教育委員会は、平均正答数、平均正答率を含む本市の結果を公表します。
- (2)本調査の実施要領にあるように、「本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと」を踏まえるとともに、「序列化や過度な競争に繋がらないよう十分に配慮して適切に扱うもの」という観点から、富田林市教育委員会では、学校別の調査結果については、公表を行いません。  
また、資料の内容についても、その取り扱いについて十分な配慮をお願いします。

### 3. 公表資料

※それぞれの資料を表示するには、右側の青色文字をクリックして下さい(pdfファイル)

#### (1)各教科の概要と課題

- ・小学校 国語A・B(資料1)・算数A・B(資料2)・理科(資料3) →s1-3.pdfへ
- ・中学校 国語A・B(資料4)・数学A・B(資料5)・理科(資料6) →s4-6.pdfへ

#### (2)子どもたちの状況について

- ・子どもたちの生活状況について(資料7) →s7.pdfへ
- ・「正答率の高さ」と「子どもの学習・生活状況調査」との関連(資料8)→s8.pdfへ
- ・小学校6年生から中学校3年生にかけての変化(資料9)→s9.pdfへ

#### (3)改善に向けた本市の取組み

- ・本市の課題改善に向けた取組みについて(資料10) →s10.pdfへ

### 4. 関連資料

◎全国学力・学習状況調査結果について →文部科学省の公表資料へ

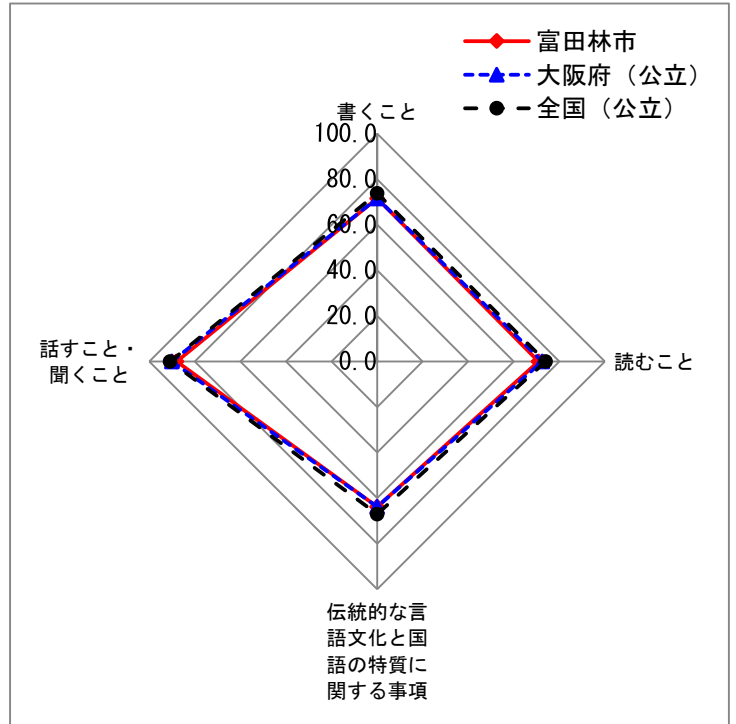
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

(資料1)

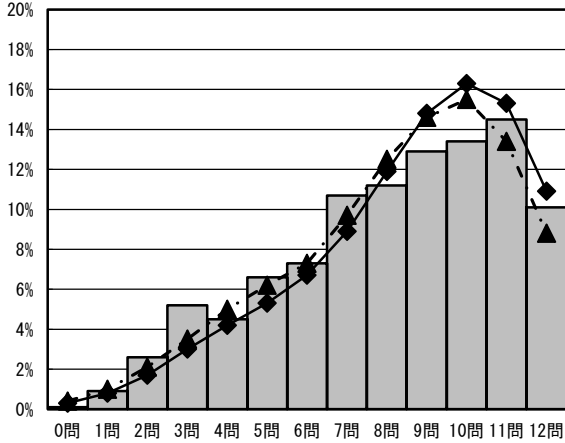
## 〔小学校国語A 主として知識〕

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	850	8.1 / 12	68
大阪府公立	70,201	8.2 / 12	68
全国公立	1,030,025	8.5 / 12	70.7

## 〔領域等別正答率%〕



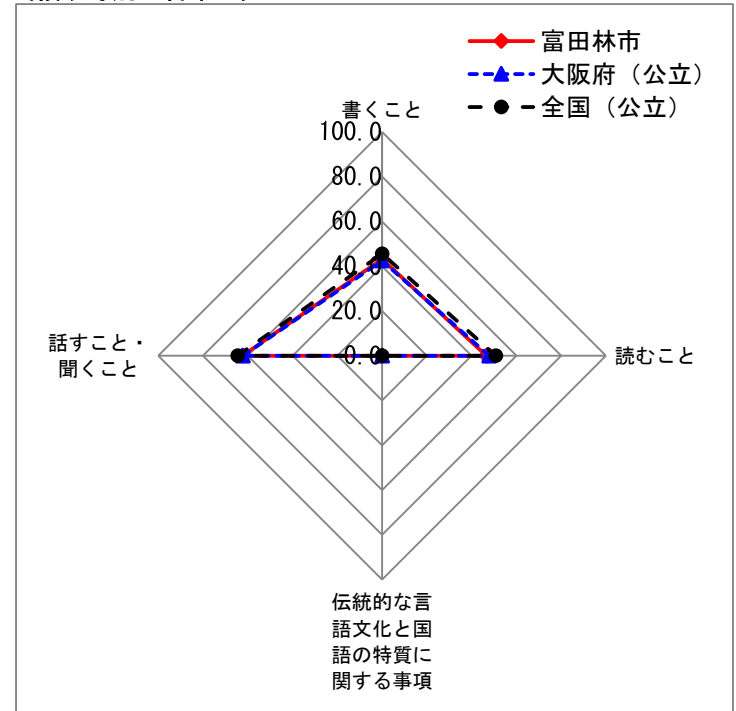
## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



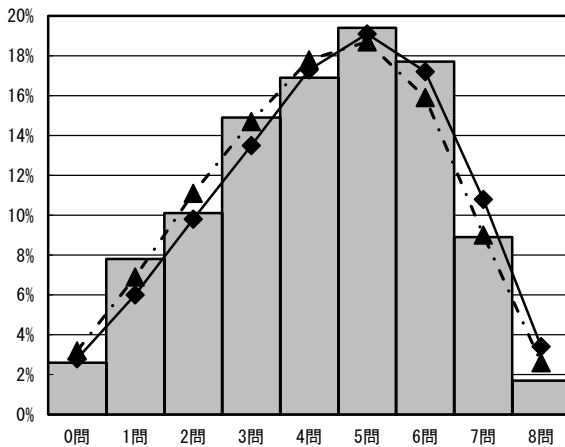
## 〔小学校国語B 主として活用〕

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	844	4.2 / 8	52
大阪府公立	70,170	4.2 / 8	52
全国公立	1,029,799	4.4 / 8	54.7

## 〔領域等別正答率%〕



## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



### 《本市の状況》

- ・国語A、国語Bともに平均正答率は大阪府と同等で、全国を下回っている。
- ・国語Aでは、正答数11問(正答率92%)の層が最も多く、正答数の分布は正答数の多い側がやや少なくなっている。
- ・国語Bでは、正答数5問(正答率63%)の層が最も多く、正答数の分布は正答数の多い側がやや少なくなっている。
- ・「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」問題や、「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」問題は概ね良好である。
- ・「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」問題や、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題に課題が見られる。

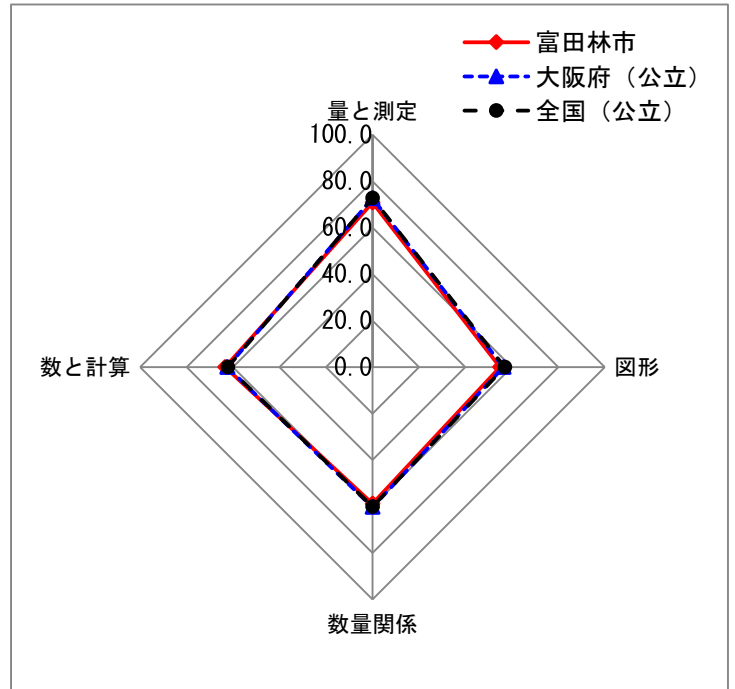
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

(資料2)

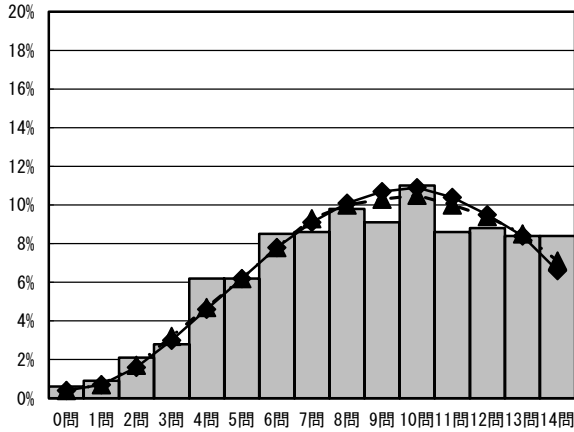
## 〔小学校算数A 主として知識〕

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	849	8.8 / 14	63
大阪府公立	70,189	8.9 / 14	63
全国公立	1,030,013	8.9 / 14	63.5

## 〔領域等別正答率%〕



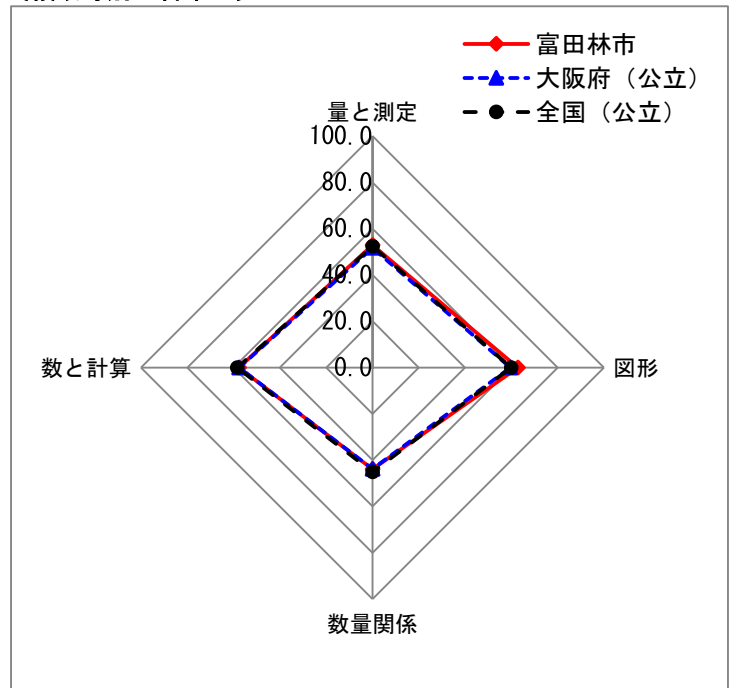
## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



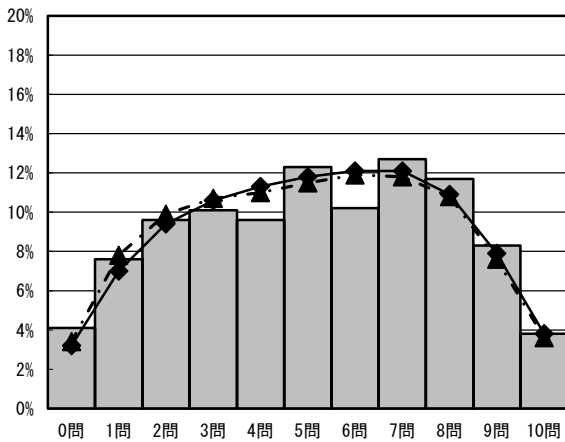
## 〔小学校算数B 主として活用〕

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	844	5.1 / 10	51
大阪府公立	70,163	5.1 / 10	51
全国公立	1,029,847	5.1 / 10	51.5

## 〔領域等別正答率%〕



## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



## 《本市の状況》

- ・算数A、算数Bともに平均正答率は大阪府と同等で、全国をわずかに下回っている。
- ・算数Aでは、正答数10問(正答率71%)の層が最も多く、全問正答者も多いが、正答数が少ない割合も全国より多い。
- ・算数Bでは、正答数7問(正答率約70%)の層が最も多く、正答数2問以下の層がやや多くなっている。
- ・「小数の除法の意味について理解している」問題や、「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が $360^\circ$  になっていることを記述する」問題等は良好である。
- ・「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している」問題や、「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する」問題に課題が見られる。

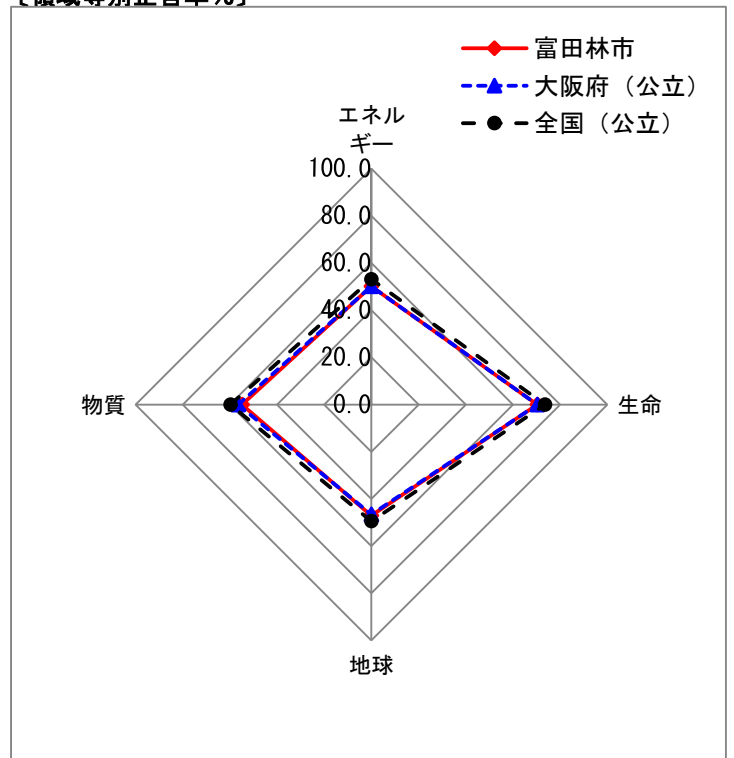
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

(資料3)

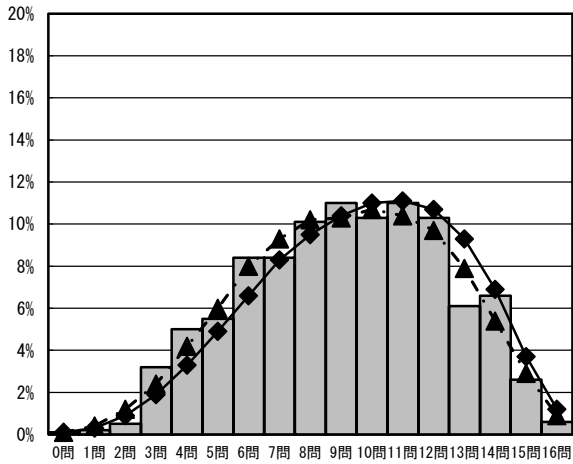
## 〔小学校理科〕

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	853	9.2 / 16	57
大阪府公立	70,328	9.2 / 16	57
全国公立	1,029,828	9.6 / 16	60.3

## 〔領域等別正答率%〕



## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



### 《本市の状況》

- ・理科の平均正答率は大阪府と同等で、全国を下回っている。
- ・正答数9問、11問(正答率56%、69%)の層が最も多く、全国と同等であるが、正答数の多い側がやや少なくなっている。
- ・「調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する」問題や、「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」問題等は良好である。
- ・「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している」問題や、「電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する」問題に課題が見られる。

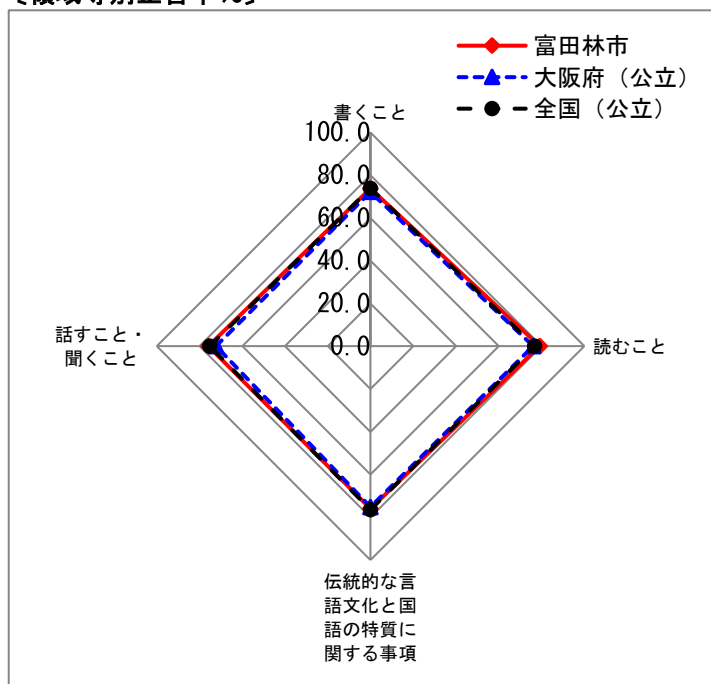
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

(資料4)

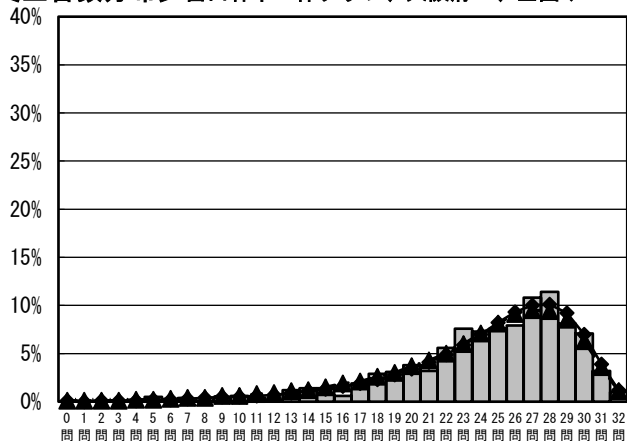
## 〔中学校国語A 主として知識〕

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	832	24.4 / 32	76
大阪府公立	65,730	23.9 / 32	75
全国公立	966,764	24.3 / 32	76.1

## 〔領域等別正答率%〕



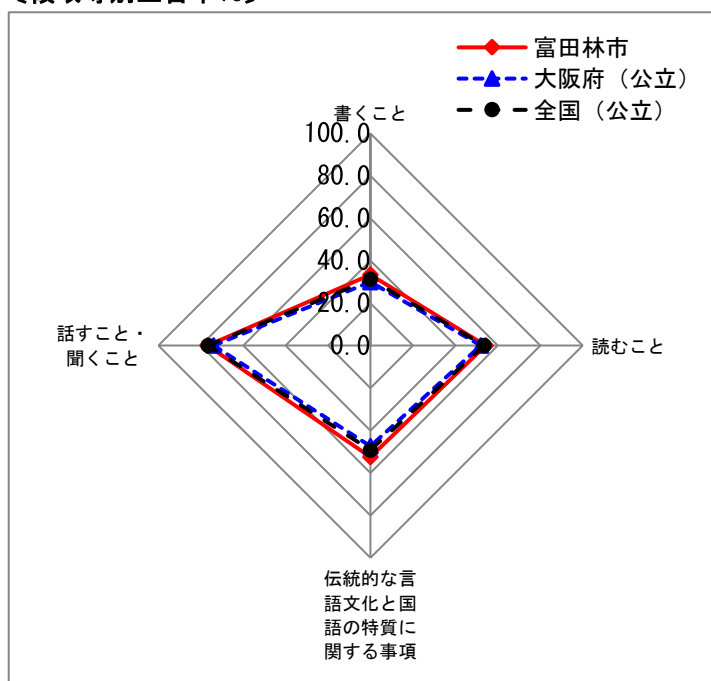
## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



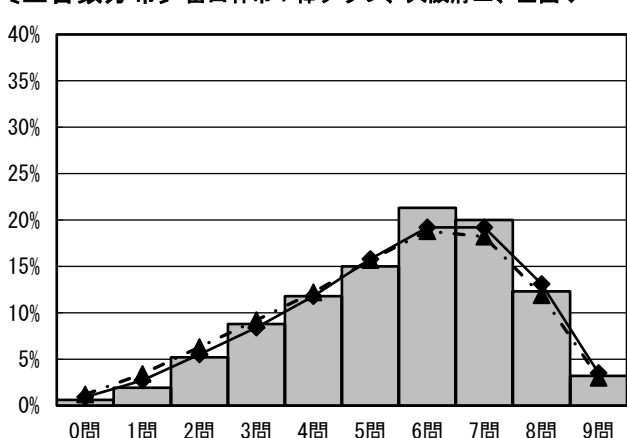
## 〔中学校国語B 主として活用〕

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	832	5.6 / 9	62
大阪府公立	65,806	5.3 / 9	59
全国公立	966,786	5.5 / 9	61.2

## 〔領域等別正答率%〕



## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



### 《本市の状況》

- ・国語Aの平均正答率は大阪府を上回り、全国と同等である。また、国語Bの平均正答率は大阪府を上回り、全国も上回っている。
- ・国語Aでは、正答数28問(正答率約88%)の層が最も多く、正答数27問(正答率約84%)の層も全国より多い。
- ・国語Bでは、正答数6問(正答率約67%)の層が最も多く、正答数7問(正答率約78%)の層も全国より多い。
- ・「段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる」問題や、「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」問題等は良好である。
- ・「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」問題や、「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」問題に課題が見られる。

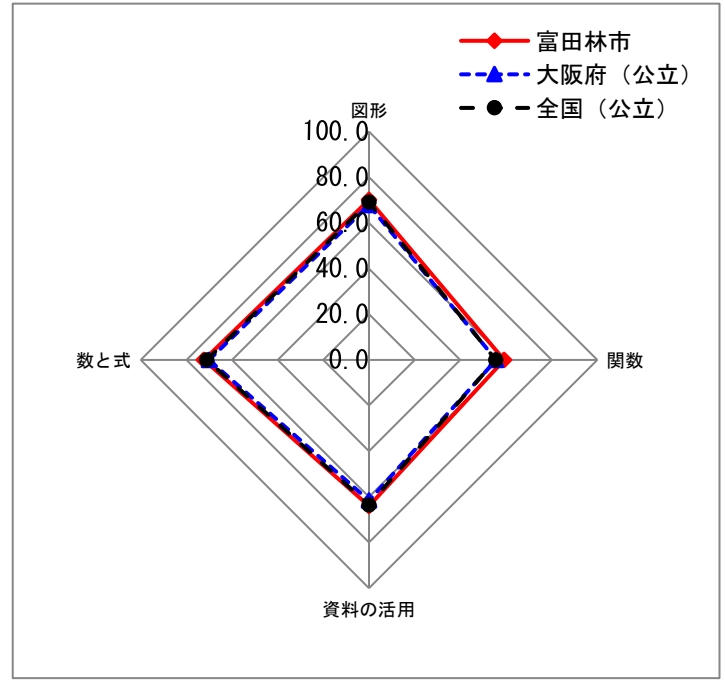
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

(資料5)

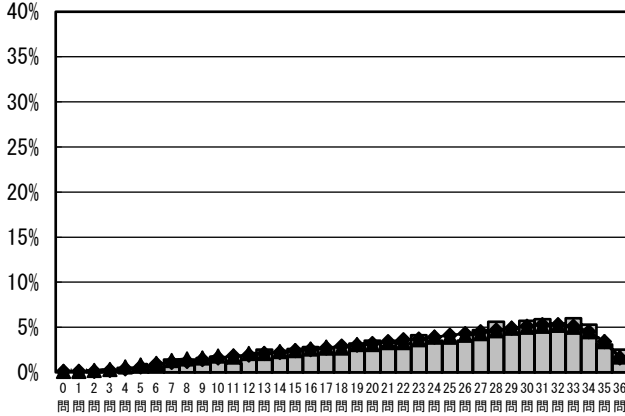
## 〔中学校数学A 主として知識〕

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	835	24.4 / 36	68
大阪府公立	65,806	23.5 / 36	65
全国公立	966,969	23.8 / 36	66.1

## 〔領域等別正答率%〕



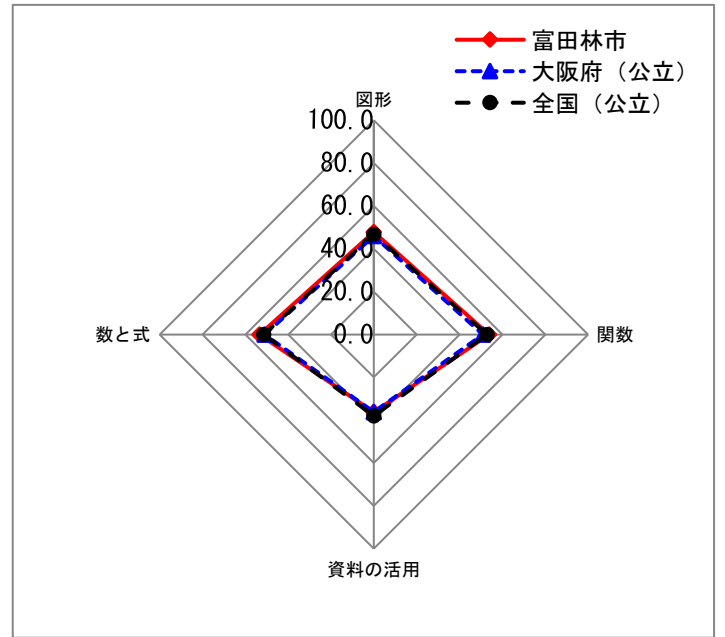
## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



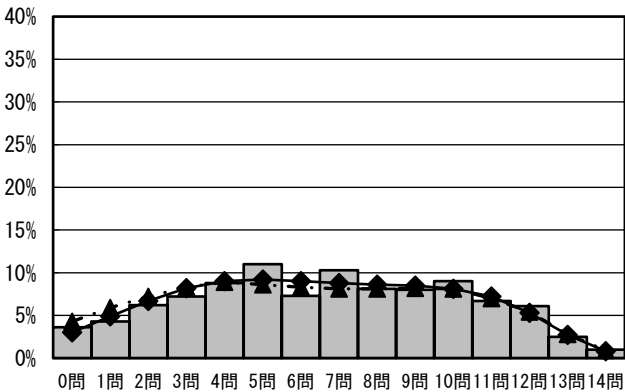
## 〔中学校数学B 主として活用〕

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	837	6.6 / 14	47
大阪府公立	65,830	6.4 / 14	46
全国公立	966,908	6.6 / 14	46.9

## 〔領域等別正答率%〕



## 〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



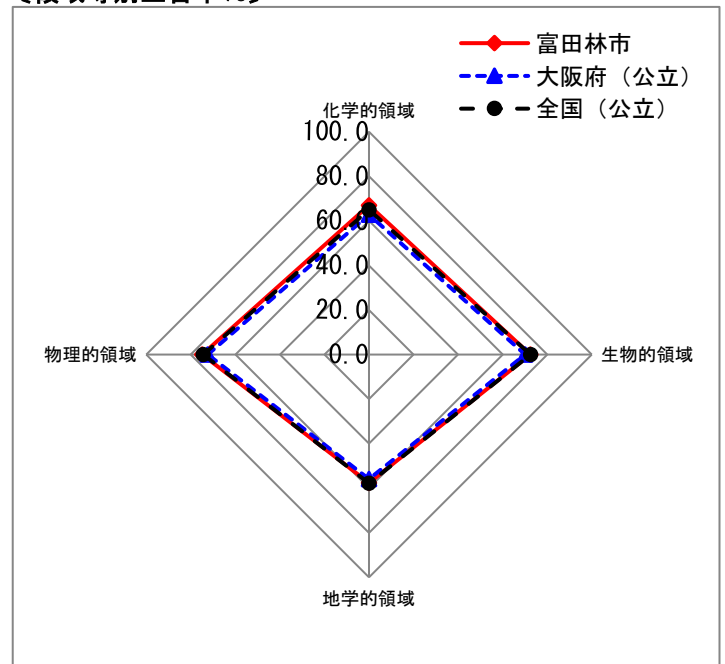
### 《本市の状況》

- ・数学A、数学Bともに平均正答率は大阪府を上回り、全国も上回っている。
- ・数学Aでは、正答数33問(正答率約92%)の層が最も多く、正答数の分布は正答数の多い側が多くなっている。
- ・数学Bでは、正答数5問(正答率約36%)の層が最も多く、正答数の分布は全国に比べて中間から上位層が厚くなっている。
- ・「一次関数 $y=ax+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連付けて理解している」問題や、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する」問題等は良好である。
- ・「数量の大小関係を不等式に表す」問題や、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する」問題に課題が見られる。

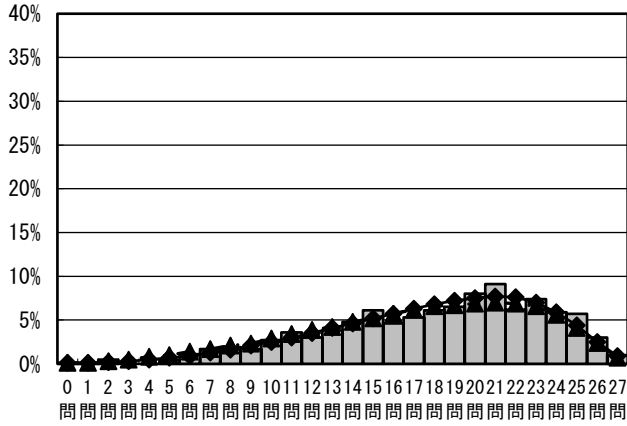
〔中学校理科〕

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
富田林市	842	18.0 / 27	67
大阪府公立	66,069	17.3 / 27	64
全国公立	967,188	17.9 / 27	66.1

〔領域等別正答率%〕



〔正答数分布〕 富田林市：棒グラフ、大阪府▲、全国◆



《本市の状況》

- ・理科の平均正答率は大阪府を上回り、全国も上回っている。
- ・理科では、正答数21問(正答率約78%)の層が最も多く、正答数の分布は正答数の多い側がやや多くなっている。
- ・「オームの法則を使って、抵抗の値を求める」問題や、「アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだす」問題等は良好である。
- ・「光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用する」問題や、「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘する」問題に課題が見られる。

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査 [児童・生徒アンケート調査]より

左の項目にあてはまると答えた割合(%)

※斜体は今年度追加した項目		小学校児童			中学校生徒		
		富田林市	大阪府	全国	富田林市	大阪府	全国
日常生活	朝食を毎日食べている	91	93	95	91	89	92
	毎日、同じぐらいの時刻に起きる	88	87	89	90	89	90
	毎日、同じぐらいの時刻に寝る	75	74	77	72	72	74
	家の人(きょうだいを除く)と学校での出来事について話をしている	79	79	81	76	73	76
	※新聞を読んでいる	17	15	20	12	11	14
	※テレビやインターネットでニュースを見る	85	84	86	89	83	87
家庭学習の様子	月～金で学校の授業以外に、毎日2時間以上勉強をする	34	29	29	42	40	36
	月～金で学校の授業以外に、全く勉強をしない	3	6	3	8	9	5
	月～金に学校の授業時間以外で全く読書をしない	26	25	29	39	43	33
	家で自分で計画を立てて勉強をしている	65	60	68	55	48	52
	家で学校の宿題をしている	98	97	97	89	89	92
	※家で学校の授業の予習・復習をしている	57	52	63	53	46	55
※家で教科書を使いながら学習している	67	63	70	63	64	71	
子どもの前向きさ	※地域の行事に参加している	53	51	63	45	34	46
	※社会をよくするために何をすべきか考えることがある	48	44	50	44	34	39
	自分には良いところがあると思う	80	81	84	80	73	79
	将来の夢や目標を持っている	86	83	85	73	69	72
	社会で起こっている問題や出来事に関心がある	61	59	64	60	52	59
	いじめはどんな理由があってもいけないことだ	97	96	97	97	95	96
	人の役に立つ人間になりたい	95	95	95	95	93	95
	学校のきまりを守っている	89	85	90	95	93	95
	※先生は、よいところを認めてくれている	86	85	85	87	78	82
	※理科の勉強は好きだ	74	77	84	61	57	63
	算数・数学の勉強は好きだ	62	64	64	54	52	54
	※今までの授業で話の組み立てを工夫して発表した	61	57	61	56	51	64
	※話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりしている	77	75	78	75	69	76

\*表の中の網掛け数字は、昨年度より5ポイント以上改善したものと

## 本市の子どもたちの概況(特徴的なもの)

## 【日常生活】

- ・朝食摂取率は、中学校で昨年度より1ポイント改善し全国に近づいたものの、小学校は昨年度より3ポイント低下し、全国・府と差が開いた。
- ・「家の人と学校での出来事について話をしている」割合は、小学校で2ポイント改善し府と同等となり、中学校では4ポイント改善し、府を上回り全国と同等となった。
- ・「テレビやインターネットでニュースを見る」割合は、小学校で全国を1ポイント下回っているものの、中学校では全国を2ポイント上回っている。

## 【家庭学習の様子】

- ・月～金で学校の授業以外に、毎日2時間以上勉強をする子どもの割合は、小中学校ともに全国を5ポイント以上、上回っている。しかし、全く勉強しない子どもの割合も、小学校は全国と同等、中学校は全国を上回っており、二極化の傾向が見られる。
- ・「家で学校の宿題をしている」子どもの割合は、小学校で1ポイント改善し全国を上回っている。しかし、中学校は昨年度より2ポイント改善したものの、府と同等で全国を下回っている。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」割合は、小学校で6ポイント改善し、府を上回っているものの、全国を下回っている。中学校では5ポイント改善し、府・全国を上回っている。

## 【子どもの前向きさ】

- ・「地域の行事に参加している」割合は小中学校ともに府を上回っているものの、全国を下回っている。
- ・「社会をよくするために何をすべきか考えることがある」割合は、小学校で全国を2ポイント下回っているものの、中学校では、5ポイント全国を上回っている。
- ・「自分には良いところがある」と思う子どもの割合は、小学校で2ポイント改善したものの、府・全国を下回る。中学校は昨年度より10ポイント以上改善し、全国を上回っている。
- ・「算数・数学」の勉強が好きだと回答する子どもの割合は、小学校で昨年度より6ポイント低下し、府・全国を下回っている。中学校でも、2ポイント低下しているものの、府を上回り、全国と同等である。
- ・「今までの授業で話の組み立てを工夫して発表した」割合や「話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりしている」割合は、小中学校ともに府を上回るものの、全国を下回っている。



## 「正答率の高さ」と「子どもの学習・生活状況調査」との関連

- ◎ 「正答率の高さ」と、「子どもの学習・生活状況調査」とをクロス分析した結果、互いの関連性が強いと考えられるものを以下にあげます。

(例)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」というアンケート項目をみたとき、小学校では「あてはまる」と答えたグループの正答率の平均が 59.5%であるのに対し、「あてはまらない」と答えたグループの正答率の平均が 47.6%であり、両者の差が 11.9%もあることが判りました。このことから、規則的な生活習慣を身につけていることは、「正答率の高さ」と関連性が強いと考えられます。

区分	正答率に 10%以上の差が生じたアンケート項目 (★：特に 20%以上の差が生じた項目) (小) 小学校 (中) 中学校
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の規則を守っている (中★)</li> <li>・課外学習で地域のことを調べたり、人と関わったりする機会があった (小) (中)</li> <li>・授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ (小) (中)</li> <li>・授業で、話の組み立てを工夫して発表した (小) (中)</li> <li>・話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりしている (小) (中)</li> </ul>
家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を毎日食べている (中)</li> <li>・毎日、同じくらいの時刻に起きている (小) (中)</li> <li>・毎日、同じくらいの時刻に寝ている (小)</li> <li>・家の人と学校での出来事について話をする (小) (中)</li> </ul>
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で、学校の宿題をしている (小★) (中★)</li> <li>・自分で計画を立てて勉強している (小) (中)</li> <li>・月～金で3時間以上勉強している (小★) (中)</li> <li>・家で予習・復習している (小)</li> </ul>
児童・生徒の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で起こっている問題や出来事に興味がある (小) (中)</li> <li>・新聞を読んでいる (小)</li> <li>・人の役に立つ人間になりたい (小★) (中)</li> <li>・社会や自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」と思う (小)</li> <li>・いじめは、どんな理由があってもいけない (小) (中)</li> </ul>

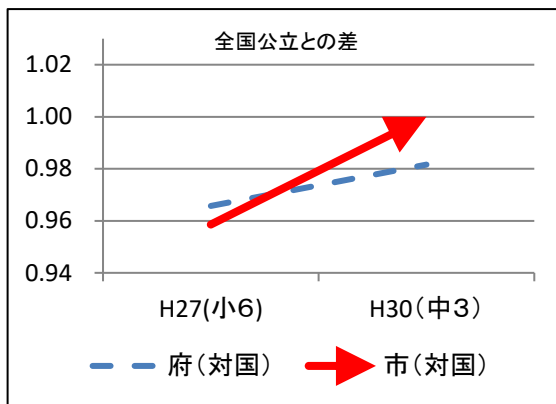
(資料 9)

## 小6から中3にかけて、すべての科目で伸びています

下のグラフは、本年度の中学校3年生について、平成27年度に小学校6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果と、本年度の調査結果を比較し、富田林市の平均正答率と全国公立の平均正答率との差（対全国比）がどのように変化したかを表したものです。

すべての科目で向上しており、富田林市の子どもたちの努力の様子が見てとれます。

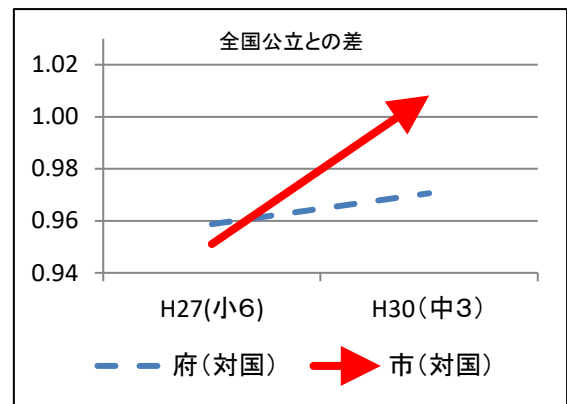
### 国語 A



平均正答率

	富田林市	大阪府	全国公立
●H27	67.1	67.6	70.0
◆H30	76	75	76.1

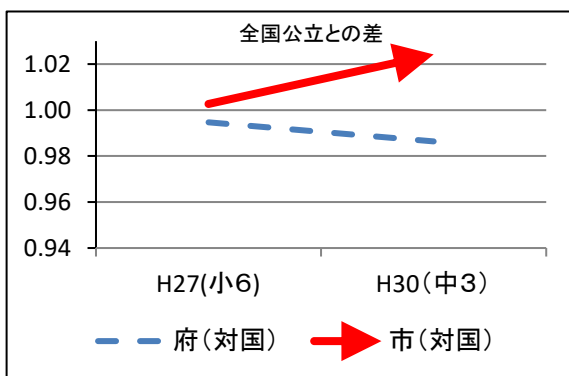
### 国語 B



平均正答率

	富田林市	大阪府	全国公立
●H27	62.2	62.7	65.4
◆H30	62	59	61.2

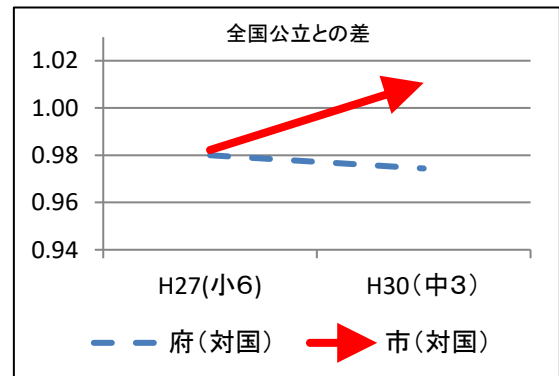
### 算数 A ・ 数学 A



平均正答率

	富田林市	大阪府	全国公立
●H27	75.4	74.8	75.2
◆H30	68	65	66.1

### 算数 B ・ 数学 B



平均正答率

	富田林市	大阪府	全国公立
●H27	44.2	44.1	45.0
◆H30	47	46	46.9

(資料10)

## 本市の課題改善に向けた取組みについて

### 富田林市教育委員会

富田林市教育委員会では、子どもたちの学力向上に向けて、さまざまな取組みを進めてきました。先に行われた全国学力・学習状況調査の結果分析(資料1～資料9)を受け、平成30年度も、一人一人の子どもたちの確かな学力の育成に向け、さらに取組みを進めて参ります。

また、今回の調査結果からも、自分で計画を立てて勉強したり、家庭で宿題をしたりするなどの「家庭学習習慣」や、毎日の起床時間・朝食摂取率などの「基本的な生活習慣」と、子どもたちの学力には、深い関わりがあることが再確認されました(資料8)。

こうしたことから、保護者のみなさまをはじめ、地域・市民の方々に、本市の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの教育に取り組んでいくことが重要だと考えておりますので、今後ともみなさまのご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

#### ・平成30年度の主な改善方策

1. 一人一人の子どもに応じたきめ細かな指導を充実させるために、国・府の加配、市費講師を有効に活用し、習熟度別指導をはじめとする少人数指導を推進します。  
※ 平成23年9月より、これまでの中学校3年生に加え、小学校6年生でも、市独自で35人学級を実施するために、市費講師を配置しています。
2. これからの時代に求められる資質・能力を育成するための授業改善に向け、各小中学校の学力向上担当者と教育委員会指導主事からなるワーキングチーム(「学力向上プロジェクトチーム」)を活用し、研究・提案・実践を行います。
3. 基礎・基本の定着や、思考力・判断力・表現力等の向上などをねらいとした研究授業を積極的に実施します。また、言語活動の充実や授業改善に向け、各種研修を開催し、教員の指導力向上を図ります。
4. 家庭学習習慣の定着と充実にむけて、子どもへの指導はもとより、「家庭学習の手引き」などを用いて家庭との連携を進めます。
5. 学習サポーター(学生等ボランティア)による学習支援の充実や、放課後学習等の実施により、個々の子どもの学習支援を行います。
6. 規範意識や基本的な生活習慣、自尊感情等の醸成にあたっては、学校における教育活動とともに、家庭や地域が果たす役割がたいへん大きくなっています。家庭や地域の方々との連携を進め、子どもたちに夢や志(こころざし)を育む取組みを推進します。